



堺市立総合医療センターと市民の健康をつなぐ広報誌

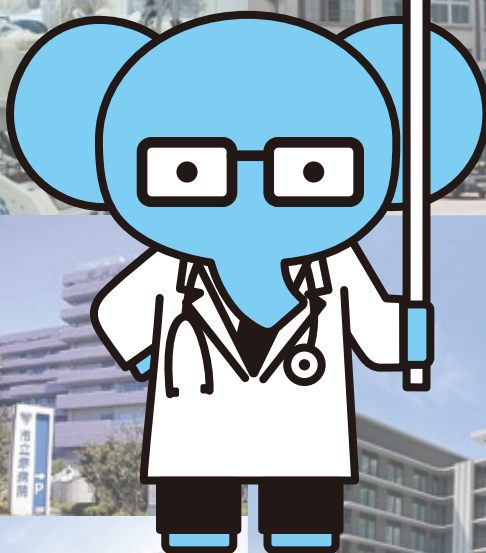
ぞうさん広場

vol. 30

記念号

新しい時代に思いを繋ぐ

創立100周年



地方独立行政法人 堺市立病院機構

堺市立総合医療センター

SAKAI CITY MEDICAL CENTER



新しい時代に
思いを繋ぐ

創立100周年記念

創立100周年
記念サイトは
こちら



「笑顔をもっと 健康をずっと」を
スローガンに新しい100年へ



市民の皆様や先人への感謝の意を込め
フェニーチェ堺にて100周年記念式典を開催

大正12年、宿院町東3丁の顕本寺境内に「堺市立公民病院」として設立された当院は、火災や台風、戦争など幾多の困難を経験しましたが、その度に市民の皆様を支えられ、不死鳥のように蘇って参りました。そして令和5年7月1日、堺市立総合医療センターは大きな節目となる100周年を迎えました。その感謝の意と新しい時代に向けた決意を発表するべく、フェニーチェ堺にて記念式典を開催し、近

隣の自治会や医療分野をはじめ多くの関係者の皆様をご招待いたしました。式典では、堺を拠点に活動する大阪交響楽団弦楽五重奏の皆様が開幕を彩り、「堺病院の歌」を演奏してくださいました。その歌詞には「地の塩の尊き使命 われら高くつねに正しくいたつきの床に病み伏すものに施さん」という言葉があります。開会の挨拶を務めた大里院長は「『地の塩』とはイエスキリストの言葉で『腐敗を防ぐ塩のように、社会や人身の模範として社会に奉仕する』ということの意味し、職員一同この精神を持ち続け、これからも皆様の健康に貢献していきたい」と、歌詞に込められた意味を伝え、未来への意思を表明しました。式辞では門田理事長が「これからの時代では全人的医療の精神をより一層大切にし、病気の治療のみならず予防にも注力していく必要がある」と提唱。新しい100年に向けて、決意を新たにしました。

式典タイムスケジュール

- 13:00 開場
- 14:10 開演
- 14:30 開会の辞
- 14:35 式辞
- 14:40 祝辞
- 15:20 記念講演I
- 16:35 特別講演
- 17:30 記念講演II
- 18:05 閉会の辞
- 18:10 閉会

大阪交響楽団の皆様による
美しい演奏でスタート!

8名の方々から
お祝いのお言葉を
いただきました

次の100年に向け
大里院長が熱弁

記念演奏



「愛の挨拶」や「情熱大陸」などの名曲に加え、「堺病院の歌」も演奏していただきました。

式辞



「創立100周年の機会に過去の歴史を振り返り、公立病院のあるべき姿を市民の皆様と共に検討して、次の100年を歩みたい」と語った門田理事長。

閉会の辞



創立100周年記念動画を上映しました。

「治療に邁進するだけでなく、地域の皆様と共に健康増進の仕組みを考え、堺市の繁栄に寄与したい」と話す横田副理事長。

堺市長 永藤 英機 様

一世紀にわたり地域医療を支え続けるだけでなく、将来を見据え新たな挑戦を続けてこられたことに深く敬意を表し、感謝申し上げます。

堺市議会 議長 的場 慎一 様

超高齢社会の中にあり、持続可能な医療体制の構築が求められています。医療・介護の連携をさらに深め、堺の医療を牽引し続けてください。

大阪府健康医療部 部長 西野 誠 様

産官学民で連携し、健康への先進的な取り組みを行う貴院の存在は、府民の健康づくりの推進に欠かせません。引き続きご尽力ください。

来賓の皆様からのご祝辞

堺市医師会 会長 西川 正治 様

新型コロナウイルスまん延の際オール堺で対応したように、市民の皆様のためこれからも強固に連携し、共に歩んでいければと思います。

大阪府看護協会 会長 弘川 摩子 様

貴院は新卒看護師や認定看護師の育成に力を注がれており、育った多くの看護師が地域で活躍しています。今後もご支援をお願いいたします。

大阪大学大学院医学系研究科・医学部 医学系研究科長 医学部長 熊ノ郷 淳 様

全人的に診療することの大切さを若い医師が学べる体制を築き、素晴らしい医療人を輩出し続ける貴院の益々の発展を願います。

堺市歯科医師会 会長 中西 時彦 様

歯科疾患と全身疾患の関連性が注目される中、診療科の垣根を越えて大変お世話になっています。今後もお力添えをお願いいたします。

堺市薬剤師会 会長 鈴木 利次 様

医薬品適正使用推進事業におきまして、貴院の薬剤師の先生には大変なご尽力をいただいております。この場を借りて厚くお礼申し上げます。

病院の沿革

— 100年の歩み —

1923年の創立からはじまった本院が
歩んできた100年間の歴史をご紹介します。



- 大正12年(1923) 7月 宿院町東3丁目本寺境内に堺市立公民病院を開設
- 昭和8年(1933) 5月 市立堺市民病院と改称
- 昭和9年(1934) 6月 火災により焼失
7月 材木町東3丁目妙国寺境内に臨時診療所を開設
9月 室戸台風による関西大風水害にて臨時診療所被災
- 昭和13年(1938) 9月 宿院町西2丁に市立堺市民病院を再建
- 昭和19年(1944) 9月 市立堺市民病院の木造建築物強制疎開のため撤去
- 昭和20年(1945) 7月 戦火による損傷が甚だしく、府立堺中学校(現府立三国丘高等学校)内に仮診療所を設置
10月 東館が復旧、診療を開始
- 昭和26年(1951) 3月 中館増築工事竣工
4月 市立堺病院と改称
- 昭和32年(1957) 4月 西館及び併設伝染病棟竣工
8月 医療法に基づく総合病院となる
- 昭和45年(1970) 2月 救急告示病院に認定
- 昭和47年(1972) 4月 臨床研修病院に指定
- 昭和54年(1979) 3月 市立堺病院運営審議会より「市立堺病院の運営のあり方について」の最終答申
- 昭和63年(1988) 7月 市立堺病院新築計画基本構想策定
- 平成7年(1995) 1月 阪神・淡路大震災発生 医療救護班派遣
- 平成8年(1996) 3月 市立堺病院憲章制定(10月施行)
7月 腸管出血性大腸菌O157診療に対応
10月 南安井町1丁に新病院を開設
- 平成9年(1997) 3月 災害拠点病院に指定
- 平成10年(1998) 3月 日本医療機能評価機構による認定
- 平成12年(2000) 7月 病院ボランティア制度導入
- 平成15年(2003) 10月 新医師臨床研修制度による管理型臨床研修病院に指定
- 平成16年(2004) 10月 電子カルテ本格稼働
- 平成19年(2007) 1月 DMAT(災害派遣医療チーム)登録配備
- 平成23年(2011) 3月 東日本大震災発生 DMAT派遣
6月 ドクターカー運用開始
- 平成24年(2012) 4月 地方独立行政法人へ移行
・地方独立行政法人堺市立病院機構市立堺病院と改称
- 平成26年(2014) 8月 地域がん診療連携拠点病院に指定
- 平成27年(2015) 7月 西区家原寺町1丁へ移転
・地方独立行政法人堺市立病院機構堺市立総合医療センターと改称
・三次救急医療機関に認定
・手術支援ロボット「da Vinci(ダビンチ)Xi」導入
- 平成28年(2016) 4月 熊本地震発生 DMAT派遣
5月 卒後臨床研修評価機構(JCEP)による認定
- 平成30年(2018) 4月 DPC特定病院群(大学病院本院に準ずる機能を有する)に指定
- 令和2年(2020) 2月 新型コロナウイルス感染症対策本部設置
4月 疾病予防管理センター設置
・新型コロナウイルス感染症入院患者初受入
- 令和4年(2022) 3月 臨床検査の国際規格ISO15189認定
- 令和5年(2023) 7月 創立100周年

堺市立総合医療センター 歴代理事長・院長



十五代院長 古河 洋
(平成16.4~平成24.3)



十四代院長 岡田 伸太郎
(平成14.4~平成16.3)



十三代院長 里見 隆
(平成11.4~平成14.3)



十二代院長 木谷 照夫
(平成8.5~平成11.3)



十一代院長 松永 亨
(平成6.4~平成7.12)



五代院長 牧野 寅三
(昭和26.4~昭和35.4)



四代院長 樋口 巖
(昭和11.1~昭和26.4)



三代院長 武 鈺宜
(昭和10.1~昭和11.1)



二代院長 南 廣憲
(昭和8.5~昭和9.8)



初代院長 金井 徳二郎
(大正12.6~昭和8.5)



十八代院長 大里 浩樹
(令和2.4~現在)



十七代院長 花房 俊昭
(平成28.4~令和2.3)



二代理事長 門田 守人
(平成28.4~現在)



十六代院長 金万 和志
(平成24.4~平成28.3)



初代理事長 北村 惣一郎
(平成24.4~平成28.3)



十代院長 湯浅 亮一
(昭和62.5~平成6.3)



九代院長 柳谷 幸敏
(昭和60.4~昭和62.3)



八代院長 渡邊 直寛
(昭和54.4~昭和60.3)



七代院長 西野 信夫
(昭和48.3~昭和54.3)



六代院長 王子 喜一
(昭和35.12~昭和48.2)

創立100周年 記念講演

100th Anniversary

記念講演では、堺市立総合医療センターの歴史や未来、がん研究への思い、健康なまちづくりについてなどをテーマに4名の医師が登壇。それぞれの熱い思いが語られました。

私の原点:市立堺病院と4人の患者

私はがんの研究者ですが、研究の道に進む前の昭和54年から2年弱、市立堺病院で外科医として勤務した経験があり、その時出会ったがん患者さんが私の人生を変えました。当時27歳だった私が同じ年齢のがん患者さんの主治医となり、看取った時のことは今でも忘れられません。この時感じた「なぜ正常細胞ががん細胞になるのか」「どうして若い人ががんになり、命を落とすのか」といった疑問を解き明かすため、私は研究者の道を歩み始めました。現在では研究が進み、がんが遺伝子の異常で発生することが解ってきて、それに応じた薬も登場し始めています。遺伝子の研究を深め、がんて亡くなる人をゼロにすることが私の最終的な目標です。人が生きるためには、希望が必要です。医療者の皆様には患者さんが何を思い、どう生きているのかということを考え、希望を与える医療を提供し続けてほしいと願っています。



国立研究開発法人 医薬基盤・健康・栄養研究所 理事長 なかむら ゆうすけ 中村 祐輔先生

健康なまちづくりと医療

今後日本の人口は、確実に減少します。人口の減少に伴い、必要な医療者・介護者の数を確保することも難しくなると危惧されます。そこで大事になってくるのが「予防」です。寝たきりや認知症のリスクを高める「フレイル」に該当する方が少ないまちがあるのではないかと考え、日本全国の市町村で調査を行いました。すると、フレイルの割合には2.6倍もの市町村間格差があり、スポーツや趣味の会に参加している高齢者が多いまちでフレイル該当者が少なく、参加している方が少ないまちではフレイル該当者も多いとわかりました。つまり、高齢者が社会参加をしやすいまちづくりを行えば、フレイル予防が進む可能性があるのです。堺市立総合医療センターではすでにフレイル予防のための取り組みをしていると伺っています。ぜひ予防においても全国の先駆けとして、走り続けていただきたいと思います。

※フレイル…病気ではないが、加齢に伴い、心や身体の動きが弱くなり、介護が必要になりやすい、健康と要介護の間の虚弱な状態。



千葉大学 予防医学センター 社会予防医学研究部門 教授 こんどう かつのり 近藤 克則先生

堺病院の歴史 宿院時代を振り返る



堺市立総合医療センター 名誉院長 さとみ たかし 里見 隆

当院は大正12年に「堺市立公民病院」として開設されました。大正不況が続き健康保険制度未整備の中、生活困窮者は無償、中産階級以下は実費診療という先駆的な形で診療を開始しました。その後終戦までの間には、火災で病院は全焼し、引き続き臨時診療所が室戸台風により被災、宿院町の「堺市民病院」は空襲により損傷するなど受難の時代が続きました。戦後復興の苦難の時代を経て昭和26年には立派な病院が完成し、名前も「市立堺病院」となりました。高度経済成長期に入り堺市の人口や面積は増加します。それに伴い少しずつ病院の増改築を行い、先進的な医療機器や技術の導入を進めますが、昭和50年代には堺市の規模に比して手狭となり、施設の老朽化が問題となってきました。昭和54年堺病院運営審議会が「病院の全面建て替え必要」との答申を出して以降も、その実現には多額の資金が必要となるため難航し、ようやく新築移転が叶ったのは約17年後の平成8年のことでした。「古い、汚い、狭い」と言われ続けた宿院時代の堺病院も、平成7年「阪神淡路大震災」に病院単独で救護班を派遣、平成8年の「O157集団感染」発生時にはその病院機能を発揮し、最後の役割を果たし終えてくれたことを大いに誇りにしたいと思います。

未来へのチャレンジ 繋いできた堺への思いと



堺市立総合医療センター 院長 おおざと ひろき 大里 浩樹

堺市の人口は一時84万人を超えていましたが今は減少してきています。さらに、高齢者の人口はあまり下がらず、生産人口が減少するという予測があり対策は必須です。そこで当院は新たな100年に向けて、様々なチャレンジを推進していきます。まず高齢化していく未来では救急患者さんが増加するはずですので、三次救急だけでなく幅広い患者さんを応需できる体制を敷いていきたいと考えています。そして、生産人口の減少に伴う人材難に対応するため、DXによる作業の効率化を進める所存です。さらに堺市と医師会が中心となって進めている堺市地域医療情報ネットワークシステムで医療連携を深め、地域全体で患者さんを守る体制を強化していきたいと思っています。また、これからの医療では生活習慣病の予防が重要となってきます。当院では疾病予防管理センターを中心に、病気の予防を多方面から推進していますので、ぜひご支援いただくと幸いです。

※DX…デジタルトランスフォーメーションの略。デジタル技術を活用して、人々の生活をより良いものへと変革すること。

堺市立総合医療センター

100周年記念サイト公開中!



笑顔をもって 健康をずっと

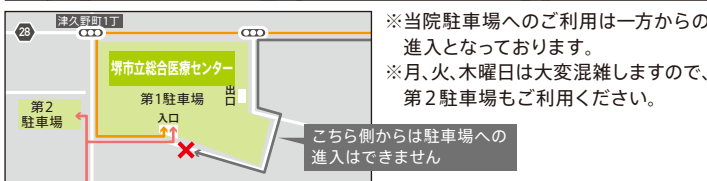
堺市立総合医療センターが2023年7月に
創立100周年を迎えたことを記念して
特設サイトを開設しました。

100周年を記念したメッセージや記念動画、
これまでの歴史をご紹介します。
ぜひご覧ください。

100周年記念サイトは
こちらのQRコードから



Access 交通のご案内



※当院駐車場へのご利用は一方からの
進入となっております。
※月、火、木曜日は大変混雑しますので、
第2駐車場もご利用ください。

こちら側からは駐車場への
進入はできません

堺区・南区方面に送迎バスを運行中!

堺区ルート 19本/日 南区ルート 8本/日

無料
※平日のみ

●運行ルート・時刻表につきましては、ホームページでご確認ください。

バスでお越しの方

中もず駅前、石津川駅前、深井駅、泉ヶ丘駅、
若竹大橋、梅・美木多駅、堺東駅前
上記の南海バス停留所から、堺市立総合医療センター行き
のバスをご利用ください

電車でお越しの方

JR阪和線津久野駅 徒歩約5分

車でお越しの方

阪和自動車道「堺IC」より10分
阪神高速道路15号堺線「堺出口」高架道を出口まで進み
国道26号線より15分

駐車場料金のご案内

一般ご利用者(お見舞い等)	当日受診された方	手術付き添いの患者さんのご家族等
最初の1時間 200円	5時間まで 200円	24時間まで 200円
最初の30分以内に駐車の場合は無料。以降30分毎に100円		当日受診された障害者手帳をお持ちの方 無料



地方独立行政法人 堺市立病院機構

堺市立総合医療センター

SAKAI CITY MEDICAL CENTER

〒593-8304 大阪府堺市西区家原寺町1丁目1番1号

TEL.072-272-1199

<https://www.sakai-city-hospital.jp/>